受講者氏名

事前課題シート②　対人援助職者の六つの成長段階

|  |  |
| --- | --- |
| 成長段階 | 段階の特徴・課題等 |
| 第１段階素人支援者 | 自分なりの問題を素早くみつけ、強力で情緒的な支援を提供。経験に基づいた助言をし、個人的な認識や常識をもとに、自らの解決法を相手に投影して支援する。長所は純粋な感じ方。本人は役に立っている（自己効力感）と感じる。課題はクライエントとの過剰な同一化、支援の質の吟味のなさ。 |
| 第2段階初心学生 | 専門職としての役割への移行期。初心者として役に立てるかどうかに関する不安やストレスを経験。また、支援に抵抗をみせるクライアントへのいらだちや適切な対処ができないことへの罪の意識をもちがちである。 |
| 第3段階上級学生 | 実習生として仕事をする大学院生に相当。専門職として確立すべき基本的なレベルで、普通に機能しはじめている時期。緊張があり、危険回避するあまり、「過度の責任感」や「誤解した責任感」をもったりする。失敗を避けるだけでなく、優れた仕事をしたいという高い欲求をもちはじめる。専門職としての役割をスーパーバイザーに求める。 |
| 第4段階専門職初任者 | 大学での学びを終えて数年後に相当。学校教育の制限から自由になれた感覚、学んだことが実践に役立つかを試してみたい承認欲求をもつ。これまでの学びを「そぎ落としたり加えたり」する再構築の時期。自分が学んできたことが役に立たないことがわかり、幻惑することもある。自分の性格が仕事に現れていることを深く経験する。より深い自己の探求と専門的な環境の探求を行う。責任感の限界、現実的なゴール設定で悩む。仕事がもつ複雑さを実感し、援助関係の重要性を深く理解する。 |
| 第5段階経験を積んだプロフェッショナル | 異なる職場で多様なクライアントに対して実践してきた人に相当。個人としての自己の認識（価値・興味・態度を含む）、対人援助職者としての役割の形成、純粋な（オーセンティック）方法でプロとしての自分のコンピタンスを使えるようにすることなどが重要は発展課題。個人的な自己と専門職としての自己の間に継続的、一貫性ができあがり、そこでは概念的なシステムと仕事のスタイルの両方において自分独自のものをつくり上げることができる。 |
| 第6段階上級プロフェッショナル | プロとして十分に確立された段階。現実の認識、幻想の消失、専門職して成し遂げてきたことに関する現実感の増加。専門領域で目新しい知識のなさの認識。自己受容の感覚、自らの仕事に対する満足感、自分自身のコンピタンスの実感、謙虚さ。一方で老いに伴うマイナス経験（健康の衰え、エネルギーの減少、仕事の活動レベルの制限）からくるストレス・悲しさ・心配も経験。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 今の自分はどの段階にいると思いますか？ |  |
| どうしてその段階にいると思いましたか？ |  |
| 次の段階に上がるために課題となることは何ですか？ |  |